

# スクールガード・リーダー

## スクールガード

スクールガードとは、あらかじめ各小学校に登録した地域住民が、学校内を巡回したり、通学路などの巡回パトロールや危険箇所の監視などを行ったりする学校安全ボランティアを指す。

## スクールガード・リーダー

スクールガード・リーダーとは、各自治体の教育委員会から委嘱された防犯の専門家(警察官 OB や民間警備会社の社員など)で、地域学校安全指導員ともいう。主な任務は、次の通り。

- ・各小学校の警備のポイントの指摘。
- ・定期的に各学校を巡回したうえでの安全体制の評価、指導・助言。
- ・スクールガードに対する警備上のポイントや不審者対応等についての具体的な指導。
- ・通学路における危険な場所の問題点についての具体的な指導。

### 参考 川崎市地域安全指導員実施要綱(抜粋)

第3条 (職務内容) スクールガード・リーダーは、次に掲げる職務を遂行するものとする。

- (1) 教育委員会が指定する区域内の学校の定期的な巡回指導
  - (2) 学校内の防犯対策(事故発生時の緊急対応、地域や関係機関との連携等)に関わる指導・助言
  - (3) スクールガードの指導育成
  - (4) スクールガード・リーダー連絡協議会への参加
- 2 前項に掲げる職務の時間は、概ね次のとおりとする。ただし、派遣先の学校の実情にそぐわない場合は、教育委員会ならびに教育委員会が指定する区域内に設置する推進委員会及びスクールガード・リーダーに委嘱された者との協議し、決定する。

- (1) 職務期間 学校の課業日を原則とする。ただし、学校の休業期間中に指導の必要が発生する場合は、この限りでない。
- (2) 職務時間 半日単位で1回3時間程度、1日あたり2回を基本とする。

第5条 (費用) スクールガード・リーダーの謝礼金は、第3条第2項に定める条件について、1回あたり5,000円と定めるものとする。

## スクールガード・リーダーの拡充

文部科学省では、地域社会全体で子どもの安全を見守る環境の整備を図る「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」の実施、学校における防犯教室の開催を支援するための、教職員や警察官等防犯教室の講師に対する講習会の実施など、各種施策を行い、学校安全の充実にハード・ソフト両面から取り組む「子ども安心プロジェクト」を推進してきた。

平成21年度には、このプロジェクトをさらに充実させ、スクールガード・リーダーを前年の2,880人から3,264人に拡充することとした。これは、小学校におけるスクールガード・リーダーを5校に1人程度の割合で配置することを目指すためのもので、全国の小学校等の巡回・指導が実施されることとしている。

### ◆スクールガード・リーダー配置[5か年の計画]

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
2,880人	3,264人	3,648人	4,096人	4,544人

## 活動状況・事例

### ・北海道

平成19年度は、全道91地域で116人のスクールガード・リーダーの委嘱を行い、「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を行った。平成20年度は、106地域において127人のスクールガード・リーダーを委嘱した。また、学校や通学路で子どもたちを見守るスクールガードを養成するための講習会を、15地域で開催した。

### ・東広島市

平成19年10月より、広島県教育委員会から委嘱を受けたスクールガード・リーダーによる東広島市立の各幼稚園及び小学校の巡回訪問指導が始まっている。20年度は、警察OB4名による巡回訪問指導を年に2回実施している。子どもたちへの防犯指導の内容は、暗くなる前に帰宅することや、防犯標語の「いかのおすし」、防犯ブザーの使い方など。